

Lieber Freund

NPO鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

vol.9

発行：NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局

TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994

http://www.tv-naruto.ne.jp/daiku/ E-mail: naruto_daiku@yahoo.co.jp

2009年7月26日発行



田中先生のタクトのもと、会場がひとつに！
大きな感動と達成感、そして
意義に満ちた2日公演でした

「僕に歌わないで、
客席を見て歌って」という言葉で
音楽が会場に向かってほとばしり始めました

ごあいさつ

第28回鳴門第九演奏会並びに前夜祭にご出演の皆様、大変ご苦労様でございました。

12月から始まった練習に熱心に参加され、晴れの舞台に立たれた230名の県内会員、そして、ご遠路はるばる鳴門までお出かけくださり、「初演の地」にふさわしい歓喜の大合唱の輪に加わってくださった全日本「第九」連合会の450名の皆様、本当にありがとうございました。今年は新型インフルエンザ発生により開催が危ぶまれ、40名近い辞退者もありましたが、事故なく無事終了できたことに感謝一杯でございます。

昨年90周年記念演奏会を終えて、今年からは初演100周年に向かっての新しい試みを模索し、実現したのが、初の前夜祭を含めた2日公演の実施でした。前夜祭は「知っている曲が多くて聴きやすかった」「クラシック音楽がちょっと苦手な私も飽きずに最後まで楽しめた」「若いソリストが初々しくて……鳴門第九が若手ソリストの登竜門

になれば……」等々のお声を頂き、2日公演が好評だったことにほっとしているところです。問題点は数多くありますので、じっくりと話し合いを続け、より充実した内容になるように検討していきたいと考えています。

これからも鳴門の宝「第九」が、多くの皆様に愛され、歌い継がれますよう、ご支援をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、演奏会開催までの長い期間にわたって、準備万端、献身的にご尽力くださった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

(NPO法人 鳴門「第九」を歌う会理事長 大塚 道子)

→中学生のための合唱教室も6回目。少しずつ参加者が増えてきたのが実感できます



前夜祭

若手声楽家の登竜門にとの願いを込めて

地元合唱団も出演しての合唱曲「日本の四季」、ソリストによるオペラアリアなど創意を盛り込んだ前夜祭。なかでも、目玉は若手声楽家を対象にしたソリストの全国公募。テープ審査、公開オーディションを経て選出された4人が鳴門に新しい風を吹き込んでくれました。皆さんから届いたメッセージを紹介します。



バリトン 岩田 源理さん

ちょうど一年前、鳴門教育大学の大学院に入学し、だんだんとこの町の生活に慣れてきた頃でした。頃安先生から第九の演奏会の招待券を頂き、演奏会に行きました。その時に感じた、合唱団の方々のエネルギー、第九に対する思い。歌を学び、よい歌を歌うことを志す者として、「いつかこの舞台に立てるような歌い手になりたい」そう思って帰ったことを覚えています。ですが、まさかこんなに早く、次の年に舞台に立たせて頂けるとは、夢にも思いませんでした。

私は、鳴門教育大学の大学院に入学する前は、広島にある音楽大学に通っていました。音楽大学ということもあり、定期演奏会等のソリストのオーディションもあり、私も数回オーディションに応募しました。しかし、そこでの結果は、いつも「該当者無し」でした。

そのような事もあり、オーケストラをバックにソロで歌うというのは、特別なことで、同じように歌を志している者の中でも、ごく限られた人間にしか与えられないものだと思います。

ですから、「自分もオーケストラをバックにソロで歌えるんだ!」と思うと、最初のオケ合わせは今までにない緊張感でした。しかし、オケ合わせ、ゲネプロ、本番と、回数を重ねるうちに、自分の中で、だんだんと良くなっていくのを感じることができました。それは、指揮者の田中先生、合唱団の皆さん、オーケストラの皆さんのあたたかい視線を感じることが出来たからだと思います。皆さんに盛り上げて頂き、乗せて頂いたからこそ、自分が持っている物を出すことが出来たと思います。

今後も、第1回目の『鳴門第九演奏会の前夜祭』の名前を汚さないように、よりよい歌を歌えるように勉強していきたいと思っています。

ソプラノ 坂井 里衣さん

この度は第28回鳴門第九演奏会前夜祭に出演させて頂き、誠にありがとうございました。私にとって初めての第九のソリストとしての舞台でしたので、嬉しい反面、とても緊張しておりました。諸先生方の熱のこもったご指導(音楽づくり)、合唱の皆様の真剣なまなざし、スタッフの皆様のあたたかい対応に支えられて、なんとか本番を迎えることができたと思っております。

本番、ステージに立った瞬間の、目もくらむような感覚は、今も忘れることができません。演奏者の方々とお客様の熱気に圧倒され、足が震えました。しかし、歌っていくうちに「喜びを伝えなければいけない」という想いが強くなり、なんとか歌いきることができました。

このような幸せな機会に恵まれたこと、大変感謝しております。皆様の今後の益々のご発展をお祈りしています。

テノール 那知上 晃さん

鳴門の地で皆様と第九を演奏できた事、「本当に運が良かった」と申しますか、私にとって掛替えの無いものとなりました。

まず、「那知上」の名前から読み取れますように、古の先祖こそ和歌山の出ですが、私自身は福島県会津出身です。お察しの通り、「第九」が演奏された時に、板東俘虜収容所の所長であった松江豊寿は会津出身です。この事実は、鳴門に不思議な縁を感じずにはられません。

そして、「第九」日本初演の地(鳴門)にて演奏できた事。これは、声楽家の私にとって誇りとなり、今後の音楽人生における糧になると実感致しました。

最後に、私のような若輩者を選出して下さった諸先生方をはじめ、事務局の方々、オーケストラ、ソリスト、合唱団の皆様にご心より感謝申し上げます。また皆様にお会い出来ます事を願っております。末筆になりましたが、ますますのご繁栄を心よりお祈り申し上げます。





やっぱり最後は阿波踊り♪
年々うまくなってる気が…?

ボランティアも2倍●2日開催
ということは裏方さんも2倍。
地元の高校生、合唱団、市民団
体に支えられて、私達は気持ち
よく歌うことができます



インフルエンザ●5月は対応に
迫られました。それでも、まずは
開催できたことに感謝!



田中マジック●「1日しか合わせていないのに
どうしてこんな合唱ができるのか…。田中先生
の力によるものです。音楽をみんなと一緒にし
たという感動とエネルギーを感じています」
(6月7日 バリトンソロ：河野克典さん 談)

地元新聞にも連日
第九の文字が踊りました

投稿特集

第九に感動

ペンネーム：エンカティナー

「歓喜の歌」の大合唱に感動

高知県 細川 成秋さん

今年で28回目を迎えた鳴門の第九演奏会に、平成13年以
来、聴き手として7回参加した。北は北海道から南は九州まで
全国から参加した「第九を歌う会」のメンバーによる「歓喜
の歌」の大合唱は、いつもながら迫力があり、感動を覚える。

合唱団のメンバーに千葉県船橋市の鈴木淑弘氏が参加さ
れているが、鈴木氏は「第九」の研究家として知られている。
多数の資料収集をもとにした著書「第九と日本人」(春秋社
刊)は、大正7年6月1日の板東でのドイツ人捕虜による
初演から昭和年代に至る国内の「第九演奏史」として、第九
愛好者の必読書ともいえるべきものである。

例年、演奏会の翌日は第九日本初演の地である板東俘虜
収容所跡とドイツ館を訪れている。ドイツ館の前庭にある
ベートーヴェン像の前に立ち、1824年5月7日、ウィーンのケ
ルトナートーア劇場での初演の様子を想像しながら、思い
にふけている。

人類の平和と喜びを歌いあげた壮麗無比な第九演奏会
は終わったばかりだが、来年6月6日の演奏会を今から楽
しみにしている。

(6月18日付 徳島新聞朝刊「読者の手紙」掲載)

今年も「第九」交響曲の演奏会を聴きに行きました。ベ
ートーヴェン自らの指揮で1824年に初演された「第九」、アジ
アでの初演の地は鳴門市の板東です。それを記念して鳴門
文化会館のこけら落としに演奏されて以来28回目、前夜祭
との2日間、今も余韻は消えません。

ドイツ姉妹都市盟約35周年を記念した前夜祭の幕開け
は、全国からの参加者による合同合唱。続いてオペラアリア
4曲を堪能。次いで全国公募で選ばれた若いソリスト4人も
登場しての「歓喜の歌」と、夕刻のホールは熱気と拍手の渦
に包まれました。翌日は奏者と観客合わせて約1600人が勢
揃い。モーツァルトの序曲に続いてメインの「第九」、交響
楽団と合唱団の融合はすごい迫力でした。前夜祭と同様、
やむことのない拍手と歓声、スタンディングオベーションも
あり、まさに感動のひと時でした。

四半世紀を過ぎて、ますます盛んなこの演奏会。若い人
たちへの、着実な継承と国際交流。日夜研さんを積んできた
出演者、NPOなど関係の方々、舞台設営の方々、ボランティ
アの裏方さん、大勢の方々の大変なご努力に敬服そして感
謝しています。筆舌に尽くし難い素晴らしい演奏をありがと
うございました。来年も楽しみにしております。

(6月19日付 徳島新聞夕刊「ちょっとええ話」掲載)

若者の参加ほしい鳴門第九

鳴門市 浅野 里江さん

18日付本欄で、高知の細川さんが、毎年、第九演奏会の鑑
賞においでくださるという投稿を拝読しました。鳴門第九を
歌う会の理事として、とてもうれしく心よりお礼申し上げます。
これまで鳴門市内や県内外の多くの第九愛好の方々に支え
られ、今年も演奏会を終えることができました。

近年、県外の出演者が増加し、限られた舞台にすべての
方に登壇していただけるだろうかといううれしい悩みはある
のですが、一番の悩みは団員の高齢化が進んでいることで
す。もちろん高齢の方にも、歌える限りお元気に参加してい
ただきたいのですが、このまま進みますとアジア初演という
史実を誇りとして歩み続けた鳴門第九の将来が危ぶまれる

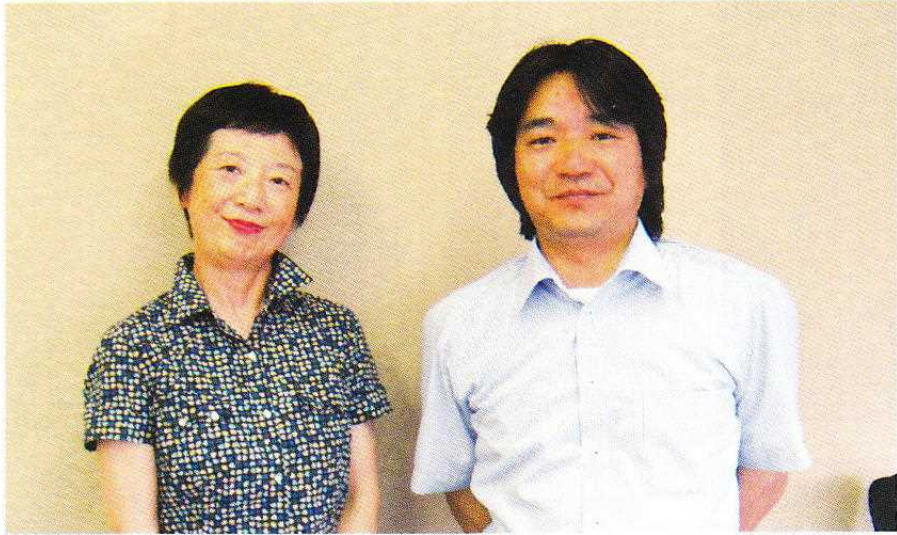
ことになります。

昭和57年の第1回は、鳴門市内6中学から100人近い中
学生が参加しました。各中学音楽教員が力を合わせ、学校ごと
に早朝、昼休み、放課後などに難曲に挑戦し、感動の舞台と
なりました。

鳴門だけに与えられた素晴らしい文化遺産「第九初演」
の意義を、先生方が子供たちにしっかり伝えていただき、全
中学校から積極的に多くの生徒さんが歓喜の大合唱の渦に
加わってくださることを切に望みます。

本年は二十数人の中高校生が若い歌声を響かせてくれ
ましたが、高校生・大学生の皆さんも一緒に「鳴門の宝」の
灯を消さないようにお力を貸してください。

(6月23日付 徳島新聞朝刊「読者の手紙」掲載)



▲吉永先生の指導力、浜田さんの企画力がタッグを組めば百人力!?

市民の「第九」へのさらなる理解と参加者の増加、レベルの向上等を目指して、4月から新事業がスタートしました。学校やコミュニティ、同好会での合唱団の育成や指導、演奏会の開催、第九演奏会の拡充やアジア初演の地としてのPR、全国の合唱団のさらなる誘致促進等を行っていきます。このプロジェクトを担当するのは、第九指導者として長年お世話になっている吉永紀美子先生、そして、鳴門ポピュラーミュージック協会会長でイベント企画や舞台設営などの経験豊富な浜田浩徳さんです。

6月の第九演奏会が終わって、プロジェクトも本格始動! 7月26日の総会後の「別府葉子シャンソンコンサート」を皮切りに、下記の事業を計画中です。

- ふれあいコンサート「歌うよろこび」……各中学校において小川明子先生の演奏と中学生による合唱
- コーラス9と市内中学生による演奏会

鳴門の「第九」が若い世代へ広がっていくのが目に浮かびますね。どうぞよろしくお願いします。

今年はついに…メサイア! Chorus9

気がつけばコーラス9演奏会も5回目。今年はヘンデル没後250年のメモリアルイヤー。今年歌わずしていつ歌う! と、オラトリオ「メサイア」(抜粋)に取り組んでいます。

6月に練習が始まり、分厚い楽譜に青ざめていたメンバーも歌い始めると夢中。「Hallelujah」「And the glory, the glory of the Lord」……歌うだけで幸せな気分になさしてくれる、さすが名曲中の名曲です。

まだ間に合いますよ、一緒に歌いませんか?

特に **男 声** を募集中です。

♪「コーラス9」第5回演奏会♪

12/23(水) 13:30~(予定) 於: 鳴門市ドイツ館

今年も、山田啓明先生、頃安利秀先生らに出演いただき、ソロやアンサンブルも楽しんでいただきます。また、上記事にもあるように、中学生も出演してくれるよう計画。ぜひ足をお運びください。問合せは浅野 ☎088-686-1296



◆平成20年度総会 & ひまわりコンサート

2008. 7/29 於: 鳴門市ドイツ館 73名参加
高橋佐代子先生の指導・吉成くみ先生のピアノで「浜辺の歌」を合唱。「ひまわりコンサート」では、ベースの斎 祐司さんとピアノの三海 英さんによるジャズ演奏で、「枯葉」「Fry me to the moon」などスタンダードナンバーを楽しみました。

◆徳島ヴォルティス「四国ダービー祭り」で第九

2008. 9/27 於: ポカリスエットスタジアム
愛媛FCとの四国ダービーを盛り上げるのに一役買いました。
指揮: 豊成 哲、ピアノ: 吉成くみ

◆アンサンブル・ドナウとのジョイント・コンサート

2008. 10/16 於: 鳴門市ドイツ館
ドイツから来日のアンサンブル・ドナウの演奏会にコーラス9もジョイント。指揮: 大井美弥子、ピアノ: 向井真紀子

◆ドイチェス・フェスト in 鳴門にコーラス9が出演

2008. 10/26 於: 鳴門市ドイツ館

◆鳴門市芸能祭

2008. 11/16 於: 鳴門市文化会館

◆「かがわ第九」に6名が参加

2008. 11/3 於: アルファあなぶきホール

◆むつ下北第九演奏会に16名が参加

2008. 11/24 於: 下北文化会館

◆大阪一万人の第九コンサートに26名が参加

2008. 12/3 於: 大阪城ホール

◆コーラス9 第4回演奏会「クリスマスコンサート」

2008. 12/23 於: 鳴門市ドイツ館
クリスマスムードいっぱいのドイツ館で、サン＝サーンス作曲「クリスマス・オラトリオ」と第九を演奏。
指揮: 山田啓明、ソプラノ: 井上ゆかり・真鍋美恵、アルト: 小川明子、テノール: 頃安利秀、バリトン: 岩田源理、ピアノ: 向井真紀子、合唱指導: 大井美弥子

◆すみだ5千人の第九に10名が参加

2009. 2/22 於: 両国国技館

◆エストニアでの第14回 感動の第九に5名が参加

2009. 3/18 於: エストニア劇場コンサートホール
合唱王国エストニアへ! 小川明子先生がソロで出演。

◆2009賀川豊彦献身100年記念事業に参加

2009. 4/4 於: 鳴門市ドイツ館
ベートーヴェン像の前で保育園児や鳴門市の中学生とともに「第九」を熱唱。指揮: 豊成 哲、ピアノ: 吉成くみ

◆第58回全国ナシ研究大会交流会に出演

2009. 6/30 於: ホテルクレメント徳島
全国からのお客さんの前で「ふるさと」「第九」などを演奏。
指揮: 大井美弥子、ピアノ: 吉成くみ



たいへんだったけれど、実り多かった2日公演。記事も寄稿も写真も盛りだくさんで、編集人はうれしい悲鳴。ご紹介できなかった記事や写真は、ブログ「第九日記」<http://naruto-daiku.at.webry.info/>に掲載しています。ぜひご覧下さいね。(広報委員一同)